

遠隔講義システム研究開発分野のプロジェクト

山本洋雄

遠隔講義システム研究開発分野では、先ず、上村喜一先生の教育システム研究開発センター在任中からの継続案件として、3人の先生方から投稿して頂いた。

- 1) 農学部の辻井弘忠先生から「SUNSによる遠隔講義—記述式によるアンケート—」
 - 2) 繊維学部岡崎光雄先生からは、上記の辻井弘忠先生との連携をもとにした「繊維学部・農学部のジョイント講義」
 - 3) 農学部の星川和俊先生と京都大学大学院農学研究科の鳥井清司先生が共同執筆の「高機能ソフトウェアのネットワーク上での共同利用と教育・研究支援」
- 3人の先生方と上村喜一先生に、改めて御礼申し上げます。

次に、2002年度教育システム研究開発センター活動計画の、遠隔講義システム研究開発分野としては2つのテーマを掲げて実施してきた。

- (1) 遠隔講義、授業方法改善等に関わるマニュアルを研究開発し、センターホームページで公開
- (2) 遠隔システムによるスクリーン映像とコンピュータ・ネットワークの併用による講義システムに関する研究開発

上記のそれぞれのテーマに対して下記の研究結果を報告している。

- 1) 上記(1)に関しては、人文学部の林靖人大学院生、菊池聡先生、それに山本洋雄の3人が共同執筆した「ハイパーメディアの特性を考慮した自学自習用e-Learningコンテンツの開発」を投稿した。

これは、遠隔講義、授業方法改善に役立つように、実際のコンテンツを開発しながら研究をまとめたものである。本内容については、教育システム研究開発センターのホームページに実際のコンテンツを公開している。紙メディアとの違いが理解しやすいように、信州大学教育システム研究開発センター紀要第7号に掲載の、「マルチメディア時代の一般教養科目(菊池聡)」の第1章の部分をコンテンツ化したものである。両者を見比べて検討できるように試みた。

- 2) 上記(2)に関しては、山本洋雄と日立電子サービス(株)の丹野和美氏が共同研究の結果として「鮮明な画面教材と講師映像の2画面提示による双方向マルチポイント接続型遠隔学習システムの構築」を報告した。

従来、遠隔講義を行う場合に、黒板に書いていたような文字などを鮮明に出しながら、映像と音声で講義するスタイルには難しい面があった。特に、文字を鮮明に映し出すことが難しかった。それを解決するひとつの方法として、2画面を用いての方式を構築したのでその報告を行うものである。

その他として、「信州大学におけるSCS利用状況調査報告」を依頼原稿として掲載した。これは、第17回教育システム研究開発センター運営委員会で、SCSの利用状況を報告することになったことを受けてのものである。